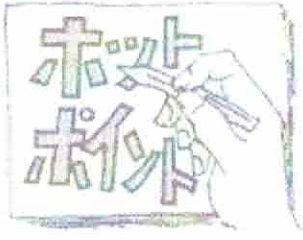

コミュニティガーデン

「市街地及びその周辺において行われる農業」が都市農業とされる。都市の反対概念が農村であり、ほんの一〇年ほど前までは、農業が都市で行われることに違和感を持つ人が少なくなかったが、今ではすっかり定着した感がある。市民農園や体験農園には多くの市民が参画し、屋上農園も珍しくはなくなった▼関連して着目しているものにコミュニティガーデンがある。これはアメリカのデトロイトで一八九三年に発祥したとされるが、「身近な空き地や既存の緑地を住民の手で美しい庭（畑）に変え、安全で豊かな美しいまちを創造していく協働の庭づくり活動」をいう。低所得者層の自給用に土地を割り当て農作物の栽培をすすめたのがそもそもであるが、その後地域の自然環境保全、持続的なまちづくりの一環としても位置付けられ、各地に広がっているらしい▼基本的には住宅やビルの取り壊し等にともなう空き地を、市民の手で緑地や畑に変え、〝みんなの庭〟〝みんなの畑〟にしていくもので、農産物の一部を自給していくだけでなく、地域コミュニティのセンター的な役割を果たしている▼たまたま訪れた横浜市鶴見区の農園付公園「ふれあい公園」や福岡市近郊の体験農園も、一部は協働農園として活用されていた。日本でも名称はともかくとして、実質コミュニティガーデン的に活用されている農地や空き地が案外ある。都市農業に限らず、耕作放棄地対策や地域コミュニティづくり、さらには国民皆農に向けてコミュニティガーデンへの取組・推進が本気で検討されていい。

（土着菌）